

A black and white photograph of a Japanese architectural model or drawing, likely a shoin-style building. The image shows a detailed roofline with multiple ridges, valleys, and decorative elements. The roof is covered in a textured material, possibly thatch or ceramic tiles. The structure features thick, dark vertical columns supporting the roofline. The overall style is traditional Japanese architecture.

勢和小学校通信一

NO. 11

2022, 10. 19

自分は何できた?

- もれこどあるある -

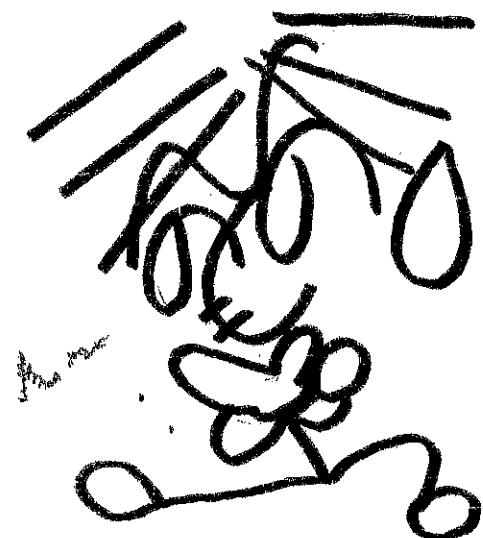
ある学級での“もめごと”に巻き込まれました。

「なんで自分がけ」「勝手に決めるな」「そんなん知らん」「ほかにちがった」など、お互いの意見がくいちがむとの“もれごとあるある”です。

この話を聞いて感じたのは、「なんか相手の悪いところばかり攻め合っている。
後ろ向きの気持ちの言葉が多いね。」ということ。クドい、ダメな、やがて...
問題を引き延ばす
解決でき?

相手が、まわりの人ほどうのこより、「自分はどうしたらちめごと達成
できてきたのか」を考えられないかたのがな。前向きの気持ちで。

自ら「自分は悪くない」と考へているから、そんなことは考へるのは「なん？」、「やい」と思ふ気持ち自れあります。必ず見えてる人は見ています。かの子も見ます。自分がすべきこと、よい行をしてれば、きっとあなたのこと



をわがつてくれるし、お手Eの周りには信頼できる最高の仲間が集まつてくるはずです。そうすれば、お互いにことを思い合い、いちがいもなく、だれかが楽しくすごせるようになる。

まずは、自分が「胸を張る行動」をして、人からとやけく言われず堂々とすごせるようにしていくうえ、校長先生は思います。

3L-Light

- 大人も子どもも高い -

「何を言つても聞く気のない相手なら、自分をさらに高いレベルに上げてしまえ。」といふ校長先生の答えに対して「校長先生は“大人”やからな。」という反論。

「ハヤ 4-2。『ヨゼフ』をほんまよと思ひました。

では、スピード違反でつかまって「オレだけじゃないみんなスピード出しとった」とびき切れる大人がいる。通常路のたれが捨てておれがないごみを捨てるキレイしている子どもがいる。情けない大人もいれば、すごい子どもがいる。年齢関係ない。その人の“人間力”だ。「自分は“子ども”」は、理由になるの？

校長先生も、子どものころから、いろんなことを一通りやってきました。アシスタント、シニアアシスタントの前で話しかねば…。その中で、いろんな人と出会って、いろんな考え方をして、ゆきやは考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。「そうだ」と、なって、今の校長先生になります。大人になつたから自然に今のように考える人に変わつてしまひやありません。校長先生のこれまでの経験や努力を「大人やからほの」の一言で括りほしくありません。そして、みんなに「子ども」をいいかけにして、変わることをあきらめてほしくありません。

